

## コアシンポジウム 2

「炎症性腸疾患:シームレスなアプローチを目指して」

-Special situation におけるこれからの課題: 疾病負荷 (Disease burden) を含めて-

主司会 清水俊明 (順天堂大学小児科)

副司会 青山伸郎 (青山内科クリニック)

コアシンポ 2 では 3 年間の主題「シームレスなアプローチを目指して」を掲げ、初年度である 2018 年 (第 14 回) はサブテーマ「Total care から microbiota まで」として横断的な問題点を集約し、2019 年 (第 15 回) では「Special situation におけるコンセンサスとピットフォール」として小児・妊娠授乳期におけるチオプリン、高齢者の血球成分除去療法を中心に議論をした。最終年となる 2020 年 (第 16 回) では Special situation におけるこれからの課題を論じたい。IBD では QOL 低下など直接的な要因だけでなく疾病に対する不安が症状増悪にも関連するので、幅広い疾病負荷 (Disease burden) の拾い上げや適切な介入が重要である。小児における移行期医療や成人の疾病負荷に対する取り組みはこれからの課題であり先進的な試みを歓迎したい。また IBD 治療は多くの選択肢が存在するようになったが、治療には寛解導入・維持両者、寛解導入のみ、寛解維持にのみに適応があったり長所を有したりしているものがある。Special situation を念頭に置いた新たな組み合わせや、他の治療によって弱点を補う斬新な発想をお待ちしている。